

2011（平成23）年度予算について

学 校 法 人 桃 山 学 院
理 事 長 坪 井 清

2011（平成23）年度学校法人桃山学院の予算は、予算会議の議を経て、2011年3月29日（火）開催の理事会、評議員会で承認され成立いたしましたので、ここに予算の概要と予算書類の公開を以下のとおり行ないます。

主 な 事 業 予 算 の 概 要

[キャンパス整備]

(1) 昭和町キャンパス整備

中学校・高等学校のある昭和町キャンパスにおいて、2010年度の既存施設（「F館」）の改修に引き続き、2011年度から2012年度の2ヵ年計画で第一体育館の改修および部室棟新築等にもなう費用を計上し、キャンパスの整備事業を推進します。

[教学条件の整備・充実]

(1) 情報インフラ整備（学内情報ネットワークシステム更新）

現行の「桃山学院大学学内情報ネットワークシステム」(S A I N T) から、さらに機能強化された新システム S A I N T の構築を行ないます。この新システムは機能の充実だけでなく、コストパフォーマンスに優れたもので、学内情報流通の一層の効率化・学生サービスの一層の向上をはかるとともに、経費節減につとめます。また、事務システムについてもサーバーを更新し事務の効率化につとめます。

なお、高等学校においても、ネットワークシステム（桃山ネット）のサーバーを更新し、情報システムの強化をはかります。

(2) 国際交流の推進

「世界の市民」の育成をめざし、国際交流のさらなる推進・充実のため、交換留学における受入・派遣留学生への支援強化、世界留学フェアへの参加など国際交流充実のための諸取り組みを行います。

(3) 就業力育成支援事業

文部科学省の「大学生の就業力支援事業（就業力GP）」に選定された本学経営学部の「実践教育による「社会人力」育成プログラム」の運営費を計上します。

(4) 大学同窓会記念事業

学院創立125・大学開学50周年記念事業寄付金としていただいた大学同窓会よりの機関寄付金を財源に、「桃山学院大学同窓会周年事業寄付金取扱要領」に基づく事業費を計上します。ここでは、「入学前教育プロジェクト」等の事業を実施します。

(5) 大学通学バス路線拡充

学生の通学の利便性をはかるため、4月1日より、現在の「中央ライン」(泉北高速線和泉中央駅～本学)、「泉大津府中ライン」(南海本線泉大津駅～和泉府中～本学)に加え、「金剛ライン」(南海高野線金剛駅～本学)を新設します。

[学生生活支援の充実]

(1) 就職支援

キャリアセンターにおいて、1年次生よりの適正検査実施や、各種セミナーおよび就職合宿の実施(年2回から年4回へ開催増)などを通して、職業意欲の高揚をはかるなど就職支援体制の強化充実をめざします。それに加え保護者対象説明会を実施することにより、キャリア教育の重要性や採用状況・就職活動についての理解や認識を深めてもらうことにつとめます。

(2) 入学試験成績優秀者対象奨学金

入学試験において優秀な成績を修めた学生に対し、奨学金を支給して優秀な人材の確保につとめ、学内の活性化をはかります。

(3) キャンパスコミュニティ形成支援

学生生活において、仲間作りを行なったりキャンパス滞留時間を増やすことにより、帰属意識の醸成を促進するとともに学生の孤立化を防ぎ、またキャリア形成の一助とするため、昨年度に引き続き「農業体験」、「ひとり暮らしの料理教室」、「プロジェクトアドベンチャー」等種々のプログラムを実施します。本年度は新規プログラムとして、「マジックをしよう」を実施します。

[スポーツ振興]

(1) 特別スポーツ強化

社会から注目度の高い複数の「チームスポーツ(サッカー・アメリカンフットボール)」種目を、常に全国大会レベルで競技し得ることを目標に特別に強化し、その活躍を通して学生諸君の本学への帰属意識の向上をはかります。また広く社会に本学の活気ある姿をアピールします。

[命の教育]

(1) AED普及による「命の教育授業」への取り組み

昭和町キャンパスの中学校および高等学校において、AED装置を取り入れた「命の教育・心肺蘇生法の授業」を積極的に推進します。

[地域づくりの推進]

(1) 地域貢献・連携の強化

本学が南大阪を中心とした地域づくりに関して、「南大阪再生プロジェクト」や「地域学校教育支援」におけるボランティアやスポーツ等への学生を中心とする様々な活動を通して、地域貢献・連携の強化につとめます。

[広報・入試対策の強化]

(1) 戦略的広報

恒常的な広報費とは別に、入試戦略強化のための広報費、大学の認知度およびイメージアップのための広報費などを計上します。また、ホームページを更新して、内容等をより充実したものとし、内外利用者への一層の情報提供につとめます。

[財政基盤・戦略基盤の強化]

(1) 特定資産の整備・拡充

財政基盤の強化のため、施設設備の維持再生資金である減価償却引当資産について、「期末減価償却累計額の少なくとも50%以上は確保する」という理事会決定に基づき当該引当資産への繰入れを行ないます。また、将来計画への対処のための将来構想資金引当資産についても繰入れを行ない、過年度費消分に対して資金補給することにより、戦略基盤の強化につとめます。

(2) 中期経営計画の策定

財政基盤の安定・強化にむけて、長期的な視点にたつ設備投資計画などを盛り込んだ中期経営計画を策定します。

資金収支予算について

資金収支予算書は、予算編成を通して当該年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。2010年度補正後予算額との比較で示せば下表のとおりです。

資金収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2011年度予算額	2010年度補正後予算額	増 減
前年度繰越支払資金	5,745	6,445	700
資 金 収 入	10,640	10,751	111
資 金 支 出	10,948	11,451	503
次年度繰越支払資金	5,438	5,745	307

<注> 端数処理(百万円未満を四捨五入)の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように資金収入につきましては、合計で1億1,100万円減の106億4,000万を

計上しました。この減収については、資産運用収入減（金利低下による受取利息減）、雑収入減（退職者数減による財団交付金減）などが主な要因です。

一方資金支出では、合計で5億300万円減の109億4,800万円を計上しました。この主な要因としては、人件費支出の減（退職予定者数の減による退職金支出減など）や減価償却引当資産や将来構想資金引当資産への繰入れ減などがあげられます。

その結果、次年度繰越支払資金は3億700万円減の54億3,800万円を見込んでいます。

消費収支予算について

消費収支予算書は、予算編成を通して当該年度の消費収入と消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態（経営状態）を表す書類です。2010年度補正後予算額との比較を表で表せば以下ようになります。

消費収支予算比較総括表 (単位：百万円)

項 目	2011年度予算額	2010年度補正後予算額	増 減
帰 属 収 入	10,403	10,447	44
基 本 金 組 入 額	238	229	9
消 費 収 入 (+)	10,165	10,218	53
消 費 支 出	10,276	10,212	64
当年度消費収支差額 (-)	111	6	117
前年度繰越消費収支差額	4,588	4,582	6
翌年度繰越消費収支差額 (+)	4,477	4,588	111

<注> 端数処理（百万円未満を四捨五入）の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように帰属収入につきましては、4,400万円減の104億300万円を計上しました。これにつきましては、資金収支同様、資産運用収入、雑収入などの減によるものです。

基本金組入額は900万円増の2億3,800万円を計上しました。その主な中身につきましては、主には図書や備品関係といった恒常的な資産取得のためのものです。

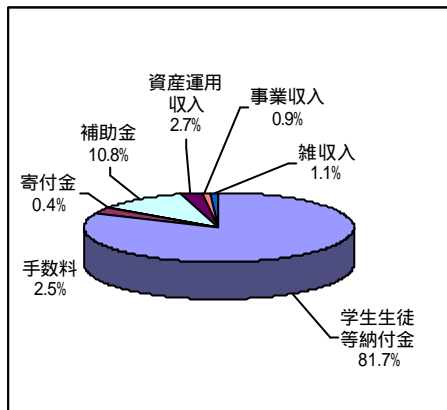
そこで、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入合計では、101億6,500万円の計上となり、5,300万円の減少となりました。

消費支出につきましては、広告費等を中心とした経常的支出に対しての全学院あげて圧縮・削減努力による減や、人件費の減などがあるものの、高等学校による授業料実質無償化や既述の「桃山学院大学情報ネットワークシステム」更新にかかわる事業経費の計上などにより6,400万円の増となり、合計で102億7,600万円の計上となりました。

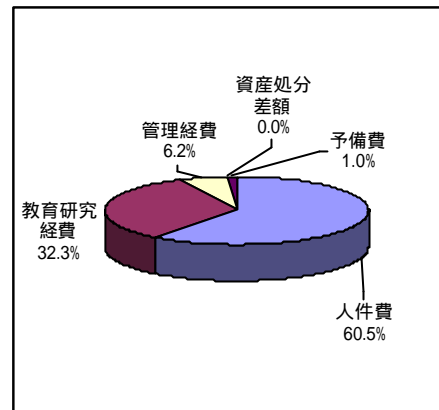
その結果、当年度消費支出超過額は1億1,700万円増の1億1,100万円（2010年度は600万円の消費収入超過）となり、翌年度繰越消費収入超過額は44億7,700万円となる見込みです。

なお、消費収支予算における一般に「経常収支」といわれる帰属収入と消費支出の構成をグラフで表せば以下ようになります。

帰属収入の部合計 104 億 300 万円



消費支出の部合計 102 億 7,600 万円



2011(平成 23)年度 資金収支予算書

2011(平成 23)年度 消費収支予算書